

ソフトウェア開発下流工程プロセス管理システム構築の一事例

5ZC-7

小川 秀人† 島袋 潤† 大名門 達夫‡ 毛木正雄‡ 渋谷 廣二‡
 †(株)日立製作所 システム開発研究所 ‡(株)日立製作所 ストレージシステム事業部

1. はじめに

近年の製品ライフサイクルの短縮・開発競争激化により、短期間かつ高品質なソフトウェア開発が求められている。また、ソフトウェア自体の規模・開発プロジェクトの規模共に大規模化しており、これらを効率的に管理する必要がある。

品質向上のためコーディング以降の工程(下流工程)で発見される問題点の迅速な対策が重要となる。特に大規模プロジェクトでは複数部署間の連絡遅延が開発全体の遅れの原因となっている。

また、大規模ソフトに対して多人数で行われる問題点の修正を確実に反映してシステムを再構築を行わなければならない。

本稿では、実際の大規模制御ソフト開発プロジェクトの下流工程プロセスを分析・整理した結果に基づいて構築したプロセス管理システムについて述べる。

2. 下流工程プロセスの整理

筆者らが対象とした開発プロジェクトの下流工程プロセスの概要を示す。[]内は対応する部署を示す。大別して以下の部署が下流工程に関係する。

開発部署	ソフトウェアの設計・開発を担当
QA 部署	ソフトウェアのテストを担当
SI 部署	ソフトウェアシステム構築(ビルド)を担当

- (1) 問題点の発見 [開発部署/QA 部署]
- (2) 問題点の連絡・対策担当者決定 [開発部署]
「連絡票」と呼ぶ帳票に問題点を記入し、回覧や会議により対策担当者を決定する。
- (3) 原因究明・問題点対策 [開発部署]
対策者は連絡票を基に「問題点票」を発行し、問題の内容や原因・対策内容等を記入する。対策に伴うプログラム修正箇所は「修正票」と呼ぶ帳票に記入し管理する。

- (4) 動作確認 [開発部署]
 - (5) 構築計画策定 [SI 部署]
構築実施日程を決め再構築依頼表を作成する。再構築依頼表は構築実施予定と修正票のマトリックスであり、どの日の構築でどの修正プログラムを組み込むかを示す。
 - (6) 再構築対象指示 [開発部署]
対策者は修正票毎に問題点対策の終了を宣言する。終了宣言された修正票を再構築対象として再構築依頼表にエンタリする。
 - (7) 再構築依頼 [開発部署]
対策者は再構築依頼表を用い修正プログラムを組み込む再構築日を指定する。
 - (8) 構築作業 [SI 部署]
再構築依頼表に従い修正プログラムをシステムに組み込み構築する。
 - (9) 構築後確認 [開発部署]
担当者は再構築を依頼した修正プログラムがシステムに取り込まれている事を確認する。
 - (10) 回帰テスト [QA 部署]
問題点が修正されているかどうか確認する。
- 本プロセスを管理する上で以下の点が課題となる。
- 各問題点に対する対策状況の把握
 - 開発部署・SI 部署間での漏れなく迅速な再構築依頼と構築結果の伝達

Case study on software development process management system
 Hideto Ogawa†, Jun Shimabukuro†, Tatsuo Onakado†, Masao Moug†, Hiroji Shibuya ‡
 † Systems Development Laboratory, Hitachi, Ltd.
 ‡ Data Storage & Retrieval Systems Division, Hitachi, Ltd.
 h-ogawa@sdl.hitachi.co.jp

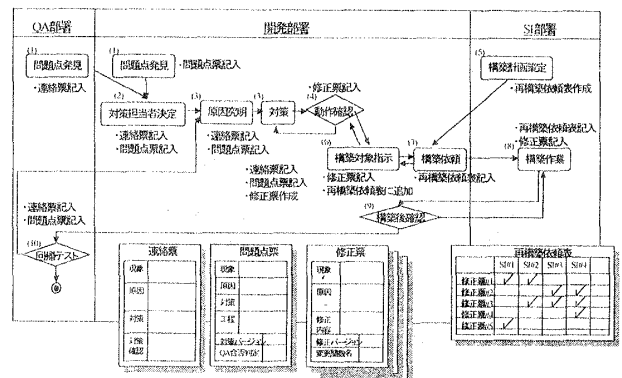


図1 下流工程プロセス

